



耐震診断及び耐震リニューアルの設計監理

4タイプの耐震診断とリニューアルの設計監理をします。

①「耐震診断基準」「改修設計指針」等にもとづく基準値を満たす補強。

評定を受ける公的タイプ。

②軸耐力補強

構造物が大きく変形しても倒壊しないことを目標にした補強

柱の残存軸耐力を確保し建物の倒壊を防止する。評定は受けない。

③生存空間確保補強

構造物が万一倒壊しても、補強した柱の周囲に空間を確保することを目標とする補強。

④応急補強

被災後、あるいは被災を想定し、安全確保（倒壊防止、崩落防止）、機能維持等を目標性能とする補強。

①の補強タイプ（評定を受けます。）

補強が総合的タイプでお奨めです。難点は費用が高く、耐震補強工事終了まで約1年半～2年程度の長い時間がかかります。

②③④の補強タイプ（評定を原則受けません）

建物には様々な事情があります。例えば、耐震補強は必要だがこれから10年程度しかつかわないとか、今後の使用状況が不明であるとか、耐震化工事費用と建物を使用して得られる利益との費用対効果が悪い・・・などの諸理由で耐震化に取り組みにくい状況があります。又、耐震化するのなら迅速に耐震化して安心したいという工期短縮の要望もあります。

そこで、下記A,Bの二つの考え方が生まれます。

A 大震災が発生し被災を受ける確率は0ではないが、被災を受けない確率も高いので、運を天に任せて耐震化には取り組まない。

B 被災を受ける可能性はあるので、費用対効果が見込める範囲内で早期に一定程度の安全性を確保したい。

Aの考え方は、被災した場合、命を失ったり、生活や事業の継続が困難になります。Bの考え方は命を守り、生活や事業の継続性を保てる可能性が高いです。

このBのタイプの考え方に対応するのが、②③④の補強タイプです。

弊社では①のタイプの耐震診断・耐震リニューアルを多く手がけてきましたが、南海大地震発生の可能性が高まっていることと少子化高齢化社会の中での地域経済の状況の中で、①のタイプに加えて②③④のタイプによる耐震化プロジェクトも積極的にお奨め致します。